

元気



まち物語

2013.3

盲導犬ボランティア・エールの会

「私は全く目が見えません。皆さん目を閉じて、まぶたの上を手で押さえてください。真っ暗になつて、光が入らないようになりましたか。これが私の世界です」。

これは、盲導犬ボランティア・エールの会の活動として桜山小学校で行われた授業の一コマです。講師は、下関出身で広島在住の会員、北崎美枝子さん。盲導犬イリアと暮らしています。

身の丈に合った活動

会のメンバーは38人。平成15年に会長の岡村浩子さんが、北崎さんの講演に感動し、もつといろいろな人に盲導犬のことを知ってほしい、分かってほしいという思いから会を発足しました。会の広報担当の藤井さんも「北崎さんのとても明るくて、チャレンジ精神旺盛な人柄にほれたのよ」と話してく

れました。

主な活動は、学校や病院からくる北崎さんへの講演依頼の連絡調整や、馬関まつり・しものせき海峡まつりでの募金活動があります。会員の勉強会として、盲導犬の訓練施設へ視察にも行きます。

会の活動への参加は義務でなく、出られるときに参加する、身の丈に合った活動がモットーです。

盲導犬のことを知ってほしい

取材をした授業では、教室にイリアが入ってきた途端、子どもたちの目はぱっと明るくなり、興味津々の様子。北崎さんの話を真剣に聞き、メモを取っていました。

「盲導犬を見掛けたときのお願いがあります。ハーネス(胴輪)をしているときは、仕事なので触らないでください。人間の食べ物を与えないでください。横断歩道で目の不自由な人を見掛けたら声を掛けて助けてあげてください」。

一歩一歩着実に

会の活動中、宿泊施設から犬は入れないでと断られたことがあるそうです。会員は、盲導犬に対す

る理解がまだ浸透していないと衝撃を受け、「まだまだ先は長いな」と感じずにはいられませんでした。これからは、視覚障害者の方が、もっと盲導犬と暮らしやすい環境を作るため、若い人にも力を発揮してほしいと願っています。

見えていないからこそ、見えてくることがある。北崎さんとイリアから気付けられることは多く、人は一人では生きていけないことを痛感させられると、会員が話してくれました。

エールの会は、いろんな人に支えられながら、今まで続いていきます。これからも盲導犬と共に一歩一歩、歩んでいきます。

※7月27日、ドリームシップで、10周年講演イベントを開催予定
岡エールの会(☎2315417)

- ①北崎さんを誘導するイリア。子どもたちの目が光ります。
- ②手前の赤い胴輪がハーネス。北崎さんとイリアはこれを介して心を通わせます。
- ③ハーネスを取ると、仕事ではなくなるイリア。元気よくしっぽを振って子どもたちにあいさつ。
- ④目を閉じて、光のない世界を体験。
- ⑤会の皆さん。北崎さん(イリアの奥)の左が会長の岡村さん、右が藤井さん。

